

こくご さんすう
小学部2年 めろん1グループ

研究授業 『でんしゃごっこ』 より

授業者 野見山

○児童の実態より

- ・発達年齢 約10ヶ月程度

- ・集中出来る時間は短く、離席が多い。

→**座位の安定**（粗大運動発達を促すあそび）

- ・クラスや学年の授業では、支援を受けて受け身なことが多い。

→**自分から**取り組む。

○授業づくりのキーワード ①発達から学ぶ

- 1 連続性がある
- 2 順序性がある
- 3 方向性がある
- 4 発達の速度は一定ではない
- 5 臨界期がある
- 6 相互作用に影響される
- 7 個人差がある

粗大運動発達

DENVER II 記録票より

生後（目安）	粗大運動
新生児～1か月	対称運動
1か月	頭を上げる
4か月	首がすわる
5か月	胸を上げる
6か月	寝返り
8か月	座れる（5秒以上）
10ヶ月	つかまり立ち、一人で座る
12か月(1歳)	一人で立つ(2秒)
14か月	一人で立つ(10秒)
16か月	上手に歩く
19か月	後退り歩き、走る
22か月	階段を登る
24か月(2歳)	ボールを蹴る
30か月	上手投げ
33か月	ジャンプ

単元(本時)の評価規準

(知識・技能)

- ・ **身近な言葉**がわかっている。
- ・ **具体物**に気づき、つかもうとしている。

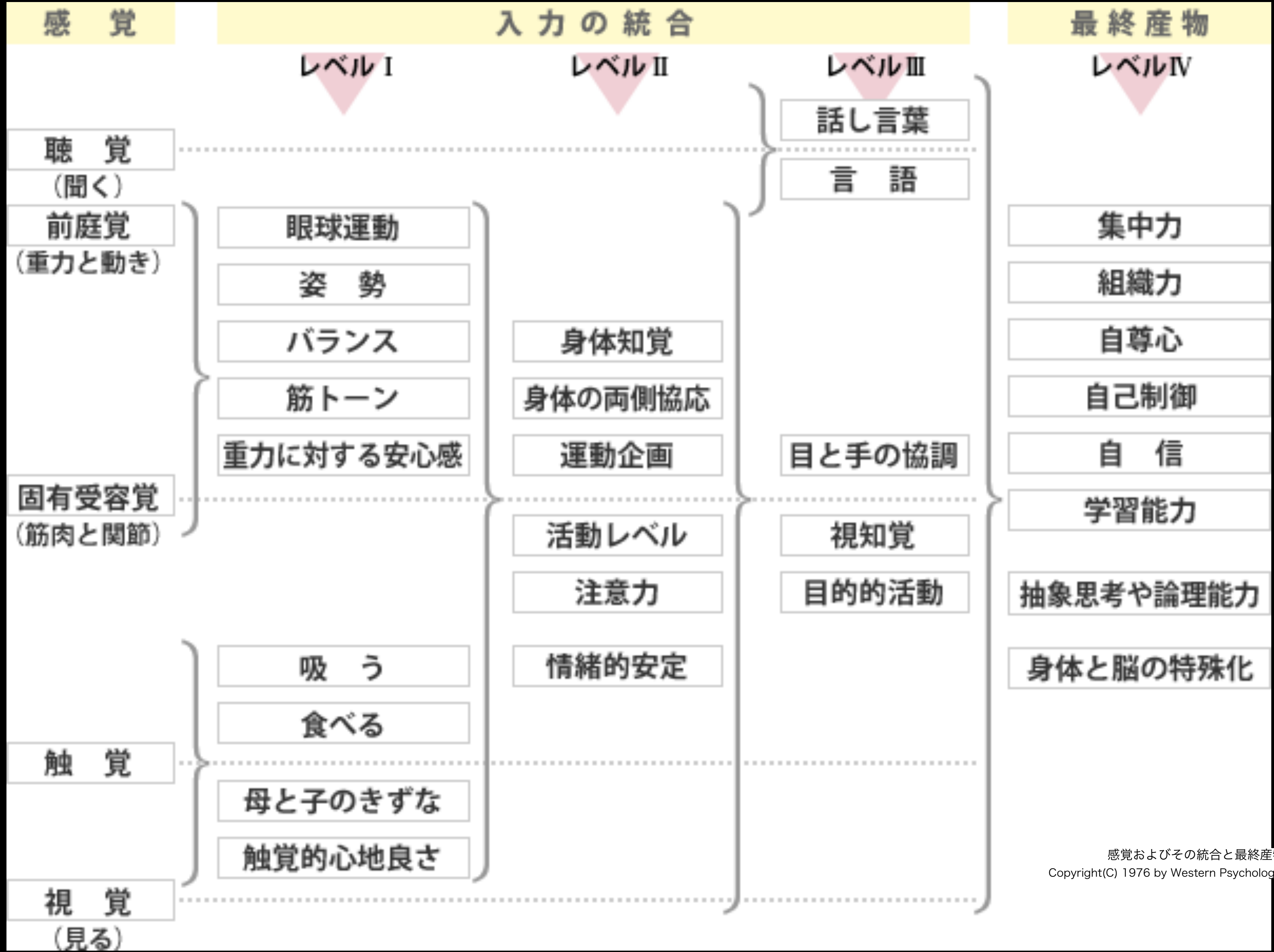
(思考・判断・表現)

- ・ **着席**して話者に注目して、表情や身振り、発声等で応答しようとしている。
- ・ 教員と手を合わせたり、具体物の形を捉えて箱に入れたりしようとしている。

(主体的に取り組む態度)

- ・ **自分から活動に取り組もう**としている。
- ・ あそびを通して、教員とかかわろうとしたり、**意思の表出**をしようとしていたりしている。

感覚統合 モデル



○授業づくりのキーワード②

感覚統合

- ・前庭覚（重力、体の傾き、スピードを感じる）
- ・固有受容覚（筋肉と関節）
- ・触覚（皮膚）

感覚刺激を伴う活動 例) ボールプール、天井から吊るした遊具

- ・「やりたい」内的要求
- ・決めた活動をパターン化して提示するのではなく、自由なあそびの中でさまざまな身体の動きを通して適切に反応する力を養う

「自分から」
感覚統合へのアプローチ
粗大運動を通して

マットのお山登り



ローリングシーソー



単元目標

(知識・技能)

- ・ **身近な言葉**がわかる。
- ・ **具体物**に気づき、つかもうとする。

(思考・判断・表現)

- ・ **着席**して話者に注目して、表情や身振り、発声等で応答しようとする。
- ・ 教員と手を合わせたり、具体物の形を捉えて箱に入れたりしようとする。

(主体的に取り組む態度)

- ・ **自分から**活動に取り組もうとする。
- ・ あそびを通して、教員とかかわろうとしたり、**意思の表出**をしようとしたりする。